

15 コンテナの育苗事例

(1) 森林研究所

1) 1年生コンテナ苗

ア) 直接播種の場合 (多粒播種)

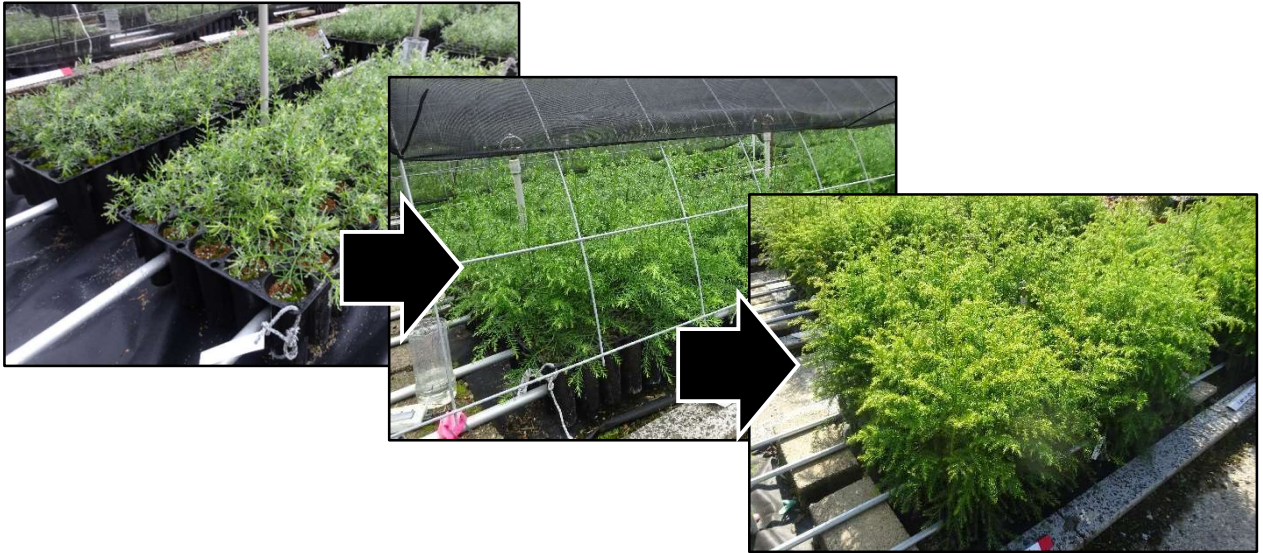


図-18-1 少花粉スギ1年生コンテナ苗 (直接播種)

(左側：屋外6月中旬 中間：8月上旬 右側：同10月中旬)



図-18-2 少花粉ヒノキ1年生コンテナ苗 (直接播種)

(左側：屋外6月中旬 中間：8月上旬 右側：同10月中旬)

(工夫している点)

直接播種の場合、5~6月までの稚苗段階では、キャビティ内の水分状態や、病害虫の発生有無を常にチェックする必要があります。このため、この時期、特に散水管理、病害虫防除を徹底するとともに、夏場の高温防止（寒冷紗の設置、トレイ側面の保護）にも配慮しています。

イ) 稚苗移植の場合



図-18-3 少花粉スギ1年生コンテナ苗（稚苗移植）

（左側：屋外6月上旬 中間：8月上旬 右側：同10月中旬）



図-18-4 少花粉ヒノキ1年生コンテナ苗（稚苗移植）

（左側：屋外6月上旬 中間：8月上旬 右側：同10月中旬）

（工夫している点）

稚苗移植の場合、5～6月までの段階では、直接播種よりもさらに、キャビティ内の水分状態とともに、病害の発生有無について特に注意を払う必要があります。このため、この時期の散水管理、病害防除管理の徹底に努めています。

(2) 豊並樹苗生産組合（勝田郡奈義町高円）



図-18-5 少花粉スギ2年生コンテナ苗

(左側：屋外6月上旬 右側：同11月上旬)



図-18-6 少花粉ヒノキ2年生コンテナ苗

(左側：屋外6月上旬 右側：同11月上旬)

(工夫している点)

この圃場は、広戸風（局地風）の発生地域に位置するため、被害を最小限に抑えるため、トレイ台の高さをやや低めに設定しています（地上約20cm）。またトレイとトレイの間隔を10cm程度設け、作業性（トレイの移動等）の向上を図るとともに、降雪の除去スペースとしても活用しています。さらに、コンテナ苗のサイズにも配慮し、サイズごとにトレイを配置し、出荷にも臨機応変に対応できる体制を整えています。

(3) 豆原山林樹苗農園（真庭市久世）



図-18-7 少花粉スギ2年生コンテナ苗
(左側：屋外6月中旬 右側：同11月上旬)



図-18-8 少花粉ヒノキ2年生コンテナ苗
(左側：屋外6月中旬 右側：同11月上旬)

(工夫している点)

コンテナ苗の育苗では、夏場の渇水等も含め、水源の確保が非常に重要なポイントです。この問題を解消するため、圃場に近い、最寄りの農業用水から、直接、水を確保しています（水利権の取得）。

また、コンテナ育苗方法についても、トレイを高く設置、チューブ方式の散水、溶存酸素濃度*の高い水（ナノバブル装置も設置）の使用、肥効調整型肥料を培地（植穴）に直接注入する等、育苗方法の改良にも積極的に取り組んでいます。